学びの風便り

リーディングスクール通信４１　R7.4.30

発行：松本市教育委員会　教育研修センター

今年度も松本市のリーディングスクールの取組みの様子をお伝えする通信「学びの風便り」をお届けします。各校の工夫を凝らした意欲的な取組みや学校づくりのアィディアが、松本の全ての学校の新たなる挑戦への気風の一助になれば、うれしく思います。

学びの改革のあゆみ　並柳小学校・筑摩小学校

並柳小学校　リーディングスクールとして新たな挑戦

今年度より並柳小学校では、リーディングスクールとして新たなチャレンジが始まりました。その第一歩として、４月 16 日に「私のチャレンジ！」をテーマとした職員研修を実施しました。研修は、先生方がこれまでの自身の学びをふり返り、これからの教育活動への「やってみたい！」という思いを共有する、活気あふれる時間となりました。

職員研修を企画した研究主任の中川先生は、アイスブレイクで先生方が自由に話せる和やかな雰囲気を作り出し、その後のラウンド形式での対話へと繋げました。昨年度の研究主任研修で学んだラウンドスタディの手法を活用し、ラウンド１では、「これまでで一番楽しかった授業はどんな授業だったか」をふり返り、学びの楽しさ（学習者としての学びや教師として行った授業）を再確認しました。続くラウンド２では、「こんな授業ができたら楽しそう！」という自由な発想を大切にし、創造性を膨らませました。最終ラウンドでは、それまでの対話で生まれたアイデアをもとに、「私のやってみたいこと」を具体的に短冊に書き出し、参加者全員で共有しました。　研修を通して、先生方からは、以下のような「やってみたいこと」が挙げられました。

「外に出て体験する」「いろんな人と交流する授業」「異年齢との交流」「地域の方と学ぶ体験」「外に出て、見て、聞いて、体験する」「地域の人と一緒に料理、地域食材を作る・調理する」「生活科、地域の方に助けていただく、ゲストティーチャーなど、体験を伴う活動」「体と心を動かす学習」「理屈じゃなく、体験！」

これらの言葉からは、教室の中だけにとどまらず、積極的に学校の外へ出て、自然や社会、地域の人々との関わりを通して、子どもたちの学びを深めたいという強い意欲が感じられました 。

また、以下のような子どもたちの主体的な学びを重視する意見も多く出されました。

「活動内容を子どもたちが話し合って決める」「対話的な学びのある活動」「個々が楽しく活動している中で、人とかかわりや協力してできたという経験ができる」「異学年での教え合い、子どもが本気になれる授業」

教師が一方的に教えるのではなく、子どもたちが自ら考え、話し合い、協力しながら学びを進めていくような、主体的な学びの実現を目指していることがうかがえます。

さらに先生方からは、以下のような働きがいのある環境づくりを目指す声もありました。

「勤務時間内にできるけど、大人も子どもも生き生きできるような体制づくり」「みんなが幸せになるように、先生方がやりがいをもって働ける環境づくりをしたい」「準備が整ってなくても動き出そう」「教材研究」「強い願いをもつ」「祖父の視点をもつ」

子どもたちの学びの充実だけでなく、先生方自身が生き生きとやりがいをもって働ける環境づくりも大切にしたいという思いが伝わってきます。

組織づくりの三要素※の一つである「コミュニケーション」が、並柳小学校の職員の中に豊かに広がっていきました。先生方一人一人の「やりたい」を大切にしながら、子どもたちの「やりたい」を実現する学校づくりが、いよいよ始まります。

※組織づくりの三要素「共通の目的」「貢献意欲」「コミュニケーション」：チェスター・バーナード

筑摩小学校　　子どもたちの主体性を育てる授業づくり！　を目指して

リーディングスクール校として２年間の取組を進め、今年度からアソシエイト校としてさらなる歩みを踏み出した筑摩小学校。昨年度までの「自由進度学習」の実践に加え、今年度は、昨年度より取組み始めたフリースタイルプロジェクト（４～６年生が自分の興味・関心を生かして、学ぶ内容や学び方、学びの計画を自分で決めて行う活動）の更なる充実と、自由進度学習により育ちつつある「子どもの主体性」を日常の授業づくりにどう生かすかを中心に、学びを進めていく予定です。さらに運動会や音楽会などの学校行事を子どもたちと創るプロジェクトを進め、「子どもの主体性」の育成を目指します。

■自由進度学習の授業づくり！　職員でたくさん話をしましょう！

４月 14 日の職員研修では、昨年度までの２年間の筑摩小の実践を振り返りながら、自由進度学習の意義を職員で再確認するところから始めました。研究主任の立石先生は、自由進度学習について次のように話されました。「学びの主導権を子どもに渡し、自分で学ぶ力を高める学習方法です。自分で選択判断したり、自分なりの学び方を試行錯誤したりできるので、筑摩小の目指す“主体的に学べる子どもたち”へ近づくことができると考えています。特に２年間実践し、子どもたちの“学ぶ楽しさ・学習意欲の高まり”を感じています」。

その後、立石先生が「自由進度学習の進め方、単元の目標・学習の流れ、コースの例の紹介」などに加え、昨年度信州大学教授伏木先生より指導いただいた“子ども自身が見通しをもてるガイダンスの工夫”や、魅力的な発展学習・学習環境の重要性などについて実践事例を交えながら詳しく説明しました。最後に「**自分だけで考えようとは思わず、いろいろな先生を巻き込みながらたくさん話をしていきましょう**」と話し説明を結びました。筑摩小の先生方が職員同士のコミュニケーションを大切にし、協働で取組みながら「自由進度学習の歩み」を積み重ねてきた様子が伝わってきました。

その後、低学年・中学年・高学年に分かれ、自由進度学習の意義を考え、１学期どの単元で実施するのが子どもたちにとってより効果的か教科書や指導書を見ながら検討し合いました。「単元の配列も教科書会社によって違うので、どの進め方が子どもたちにとってよいか考えないといけないな」。「昨年やってみて社会の防災“もしもの時に備えよう”と国語の“新聞づくり”をセットにしてやると有効だったよ」。など、連学年で今までの経験をもとにアイデアを出し合いながら構想する有意義な時間となりました。

６月 24 日には、**松本市教育研修センターの講座「実践校に学ぶ“単元内自由進度学習”」として、２年間学んできた成果を公開**します。「単元内自由進度学習をやってみたいが、どうやって進めていいかわからない」など悩みを抱えている先生方、ぜひ筑摩小の先生方の実践から「単元内自由進度学習」について一緒に学んでみませんか。きっといろいろなヒントが見つかるのではないでしょうか。

あの子もこの子も大満足！単元内自由進度学習　　**６月２４日（火）　14:00～の予定**
講座名：C08　実践校に学ぶ「単元内自由進度学習」　　**会場　筑摩小学校**
６年　社会「天皇中心の国づくり」　算数「分数÷分数」　図工「くるくるクランク」の３教科
４年　算数「小数」
※追加申込を受けつけていますので、教頭先生を通して、教育研修センターまで連絡ください。
詳細の日程等につきましては、後日参加者にお知らせします。